Ver.2106

研究に関する情報公開

＜人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針＞に基づき，研究の実施について情報を公開します。

★本研究に関するご質問等がありましたら下記の＜お問い合わせ窓口＞までご連絡ください。

★ご希望があれば，他の研究対象者の方の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で，研究計画書及び関連資料を閲覧することができます。

★試料・情報が当該研究に用いられることについて，研究対象者若しくは研究対象者の代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので，下記の＜お問い合わせ窓口＞までご連絡ください。その場合でも，研究対象者の方に不利益が生じることはありません。

＜研究課題名＞

小児固形腫瘍のエピゲノム変化に関する研究

＜研究機関・研究責任者名＞

日本大学医学部　病態病理学系腫瘍病理学分野（附属板橋病院　病理診断科）　（研究責任者）増田　しのぶ

＜研究期間＞

承認日　～　令和　5（西暦　2025）年　3月　31日

＜研究の目的と意義＞

胚細胞腫瘍は生殖細胞が起源となって発症する固形腫瘍であり、主に卵巣や精巣などの性腺に発生することが多いですが、他にも脳内や仙尾部（尾骨のあたり）など体の正中に沿って発生することもあります。新生児～高齢者にまで幅広く見られ、特に小児の固形腫瘍は患者さんが少なく、まだまだ分かっていないことが多いです。胚細胞腫瘍である仙尾部奇形腫は40,000出生に1人の確率で発症し、胎児の尾骨周囲に巨大な腫瘍として発生し、超音波検査で発見されます。予後は比較的良好であり、基本的な治療は手術で腫瘍を摘出することですが、時折再発が認められます。この研究では仙尾部奇形腫などの胚細胞腫瘍において、どのような腫瘍が再発や転移しやすい性質を持っているのかを調べるために、主に腫瘍細胞のゲノムDNAの解析を行います。但し遺伝に関係する解析は一切行いません。腫瘍細胞だけが持っているDNAの特徴がわかれば、患者さんの予後をより正しく予測することが期待できると考えられます。

＜方法＞

1999年1月1日から2021年12月31日までに当院小児外科で胚細胞腫瘍(仙尾部奇形腫、卵巣奇形腫、精巣奇形腫など)の摘出手術を受けられた患者さんの病理検体を用いて、腫瘍細胞のゲノムDNAを解析し、腫瘍細胞に特徴的に見られる変化を調べます。胚細胞腫瘍は性別・年齢・部位によって、組織型などが変化するため、カルテに記載されている患者さんの年齢、性別、腫瘍の大きさ・位置、再発の有無などのデータを匿名化した上で使用させて頂きます。

＜お問い合わせ窓口＞

日本大学医学部附属板橋病院（東京都板橋区大谷口上町30-1）
小児外科　氏名：加藤　廉
電話：03-3972-8111　内線：(医局)　2452